

千葉県立四街道高等学校

平成28年度 学校自己評価の結果について

- 1 保護者・生徒・教職員による学校評価アンケート・・・・・・・・・・ P 1～10
- 2 生徒による授業評価アンケート・・・・・・・・・・ P 11～12

平成28年度 学校教育目標

自ら学ぶ意志と豊かな心を養い、時代を担う一員として、社会の変化に対応しながら社会で活躍できる「生きる力」を持った、たくましい人材を育てる。

目標とする生徒像

- 自ら学び幅広く学ぶ
 - ・課題意識を持って自ら学ぶ意志を持っている
 - ・時間を大切にし、計画的に行動できる
- 心身ともに健康である
 - ・生活習慣を確立し、節度を守る
 - ・健康や安全についての意識が高い
- 個人の価値を尊ぶ
 - ・自己の責任を果たし、他人に迷惑をかけないという意識を持っている
 - ・相手の立場に立って考え、誰にでも公平に接することができる
- 社会に貢献する
 - ・勤労と責任を重んじ、社会性・協調性がある
 - ・地域に貢献する意識を持っている
- 文化を愛する
 - ・芸術・スポーツなどを通して豊かな人間性を備える

本年度の重点目標

は関連する質問項目番号

- 1 **学力の向上** 保護者-2, 生徒-2, 3, 4, 職員-4, 5 (各アンケート結果)
 - ・指導目標の明確化と指導方法の工夫・改善（授業研修の充実、授業アンケートの実施・評価）
 - ・個に応じた指導の一層の充実（少人数指導、習熟度別学習の推進）
- 2 **進路指導の充実** 保護者-6, 生徒-5, 6, 職員-9
 - ・進路意識を高めるための組織的・計画的な取組の充実（進路ガイダンス等）
 - ・進路指導に関する情報収集と、生徒・保護者に対する情報提供の推進
 - ・「総合的な学習の時間」の一層の工夫改善とキャリア教育の推進
 - ・進学補習の計画的な実施（教科、学年、進路指導部の連携）
- 3 **部活動の充実** 保護者-7, 生徒-9
 - ・組織的な活動を通じた豊かな心と健やかな体の育成
- 4 **道徳教育の充実** 生徒-11
 - ・他を思いやりながらも自分の意志を正しく伝える力の育成
 - ・情報化社会の中で身に付けなければならない情報モラルの修得
 - ・自己理解を進めながら自己実現を目指す力の育成
- 5 **生徒指導の充実** 保護者-3, 4, 生徒-1, 7, 8, 職員-6, 7, 10
 - ・四街道高校生の一員であることの自覚のもと、自律した学生生活の実現
 - ・規律ある生活習慣の確立と健康で調和のとれた心身の育成
 - ・交通安全に関する指導の充実
 - ・教室等の環境美化及び安全で清潔な学校づくりの推進
 - ・教育相談体制の充実
- 6 **情報発信及び広報活動の推進・充実** 保護者-1, 8, 9, 12, 職員-8, 12, 13
 - ・家庭地域との緊密な連携の推進
 - ・学校公開、HPや広報誌等による情報提供の推進

1 保護者・生徒・職員による学校評価アンケートについて

(1) アンケート実施時期 平成28年12月

(2) 調査対象及び回答数等

区分 (対象者数)	保護者 957*1	生徒 971	職員 58	備考
回答数	725	949	58	※1 保護者の回答は、一家族につき1回答を求めた。
回答率	75.8%	97.8%	100%	
質問項目数*2 (うち昨年度と同等のもの)	13 (8)	13 (6)	15 (9)	※2 質問項目は、今年度大幅に変更した。詳細は(3)参照のこと。

(3) 昨年度との変更について

今年度、すべての調査対象について、質問項目の内容を大幅に見直して半数近くの項目を変更した。これは、学校について自分の取組はどうだったか尋ねるといった視点から、客観的に学校の取組を評価する視点を多く取り入れたことと、本年度の学校教育目標に対応する質問項目を多く入れたことによる。

また、回答選択肢として昨年までの5段階評価を改め4段階評価とした。これは、昨年までの「どちらともいえない」という選択肢を止め、直感的でもよいから基本的に肯定寄りか否定寄りかをはっきりさせてもらうためである。これにより、以降の分析等において昨年度との比較を行う際には、便宜上、昨年度「どちらともいえない」という回答の半数を肯定的回答、半数を否定的回答だったと仮定して処理した。

以上から、昨年度との比較については参考程度として御覧いただきたい。

(4) 結果

ア 結果概要

区分	保護者	生徒	教職員	
肯定的回答の多い項目の数 (全調査項目数に対する割合)	11項目 84.6%	10項目 76.9%	10項目 66.7%	※ 肯定的回答の多い項目： 「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の割合が80%を超えるもの
否定的回答の多い項目の数 (全調査項目数に対する割合)	0 0%	0 0%	1項目 6.7%	※ 否定的回答の多い項目： 「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」の割合が40%を超えるもの

イ 昨年度と比べ大きく変動のあった項目

	保護者	生徒	教職員
肯定的回答が昨年比10ポイント以上増加したもの	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する情報提供や相談への対応等，進路指導は適切に行われている。 ・教員は，子供の悩みや相談に親身になって応えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方は，生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれている。 ・先生方は，授業を工夫して学力向上に取り組んでいる。 ・生徒指導（挨拶，マナー，頭髪・服装）が適切になされている。 ・部活動は活発である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報漏洩，盗難防止対策等，個人情報の管理を適切に行っている。
肯定的回答が昨年比10ポイント以上減少したもの	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の体制は整っており，生徒の悩みや相談に適切に対応している。 ・教職員は，生徒理解に努め，生徒との信頼関係を築くことができている。

① 保護者による学校評価（肯定的評価（「そう思う」+「ややそう思う」）の多い順）



表1 保護者による学校評価 [昨年度との比較]

評価	昨年度 番号	質問事項	思う そう思う	やや そう思う	あまり 感がない	あまり 感がない	肯定	否定	肯定増減
◎	7	部活動が活発である	65.5%	28.6%	4.3%	0.7%	94.1%	5.0%	1.0%
◎	↑	子どもを四街道高校に入学させてよかった	55.9%	38.2%	4.8%	1.0%	94.1%	5.8%	3.1%
◎	◇	校則や、挨拶・マナー、頭髪・服装等の生徒指導は、適切である	46.8%	46.9%	5.1%	1.0%	93.7%	6.1%	8.9%
◎	-	1 学校の教育目標・教育方針は、ホームページ、入学のしおり等で分かりやすく示されている	35.3%	57.8%	6.3%	0.0%	93.1%	6.3%	
○	◇	12 PTA活動は適切である	28.7%	60.7%	9.1%	0.8%	89.4%	9.9%	9.1%
○	◇	5 教員は、教育に熱心に取り組んでいる	29.9%	56.7%	11.0%	1.2%	86.6%	12.3%	8.6%
○	-	13 学校は、セクハラ相談等、不祥事防止に配慮している	28.1%	57.9%	12.0%	1.0%	86.1%	13.0%	
○	◇	6 進路に関する情報提供や相談への対応等、進路指導は適切に行われている	33.7%	52.1%	12.8%	0.7%	85.8%	13.5%	11.5%
○	-	11 教員は、子ども一人一人に公平に接し、個々を大切にしようと努力している	27.2%	56.7%	13.7%	1.5%	83.9%	15.2%	
○	-	2 教員は、授業を工夫し、学力の向上に取り組んでいる	19.4%	61.5%	17.0%	1.7%	81.0%	18.6%	
○	◇	4 教員は、子どもの悩みや相談に親身になって応えている	26.1%	53.9%	17.8%	1.7%	80.0%	19.4%	10.1%
○	◇	8 学校は、教育活動の内容について文書やホームページ等で保護者に知らせている	26.6%	50.9%	20.3%	1.4%	77.5%	21.7%	7.1%
○	-	9 学校は、地域や家庭との連携に積極的だ	19.9%	50.1%	26.7%	1.8%	70.0%	28.5%	

指標の見方 (評価) ◎90%以上が肯定的 ○70%以上が肯定的 △50%以上が肯定的 ▲肯定的か50%未満

(昨年度比) ◇前年度比+5%以上 ↑前年度比+2%以上+5%未満 ↓前年度比-2%以上-5%未満 ⇩前年度比-5%以上 - 前年同等設問無し

② 生徒による学校評価（肯定的評価（「よくあてはまる」+「大体あてはまる」）の多い順）



表2 生徒による学校評価 [昨年度との比較]

評価	昨年比 番号	質問事項	よく あてはまる	大抵 あてはまる	あまり あてはまる	全く あてはまらない	肯定	否定	肯定増減
◎	↑	9 部活動は活発である	72.5%	24.0%	2.6%	0.4%	96.5%	3.1%	11.5%
◎	↑	1 生徒指導(挨拶, マナー, 頭髪・服装)が適切になされている	47.6%	46.4%	4.9%	0.8%	94.0%	5.7%	17.0%
◎	-	10 四街道高校の学校行事(文化祭, 体育祭等)は充実している	57.7%	35.0%	6.1%	0.7%	92.7%	6.8%	
◎	-	4 通知票等の成績評価は, シラバスに基づき適切に評価されている	31.6%	59.4%	8.0%	0.8%	91.0%	8.9%	
◎	↑	5 進路に関する相談等, 進路指導は適切になされている	39.1%	51.9%	7.7%	0.9%	91.0%	8.6%	7.7%
○	-	11 思いやりの心やモラルの育成等, 道徳教育は適切になされている	28.8%	59.6%	10.7%	1.2%	87.9%	11.8%	
○	-	6 上級学校説明会や進路に関するガイダンスは, 役立っている	31.9%	54.8%	10.7%	1.9%	86.7%	12.6%	
○		12 四街道高校に入学して良かった	41.0%	45.6%	9.8%	3.5%	86.6%	13.3%	0.6%
○	-	13 学校は, セクハラ相談等, 不祥事防止に配慮している	41.0%	45.6%	9.8%	3.5%	86.6%	13.3%	
○	↑	3 先生方は, 授業を工夫して学力向上に取り組んでいる	18.7%	64.0%	15.6%	1.7%	82.6%	17.3%	17.1%
○	↑	7 先生方は, 生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれている	25.7%	53.0%	18.0%	3.1%	78.7%	21.1%	20.7%
○	-	8 四街道高校は相談体制が整っており, 悩み事を相談する窓口がある	24.9%	49.9%	22.0%	3.1%	74.8%	25.1%	
○	-	2 授業の内容に興味・関心が持てる	12.6%	61.7%	22.3%	3.4%	74.3%	25.6%	

指標の見方 [評価] ◎90%以上が肯定的 ○70%以上が肯定的 △50%以上が肯定的 ▲肯定的が50%未満

[昨年比] ↑前年度比+5%以上 ↑前年度比+2%以上+5%未満 ↓前年度比-2%以上-5%未満 ⇩前年度比-5%以上 ⇩前年度同等設問無し

③ 職員による学校評価（肯定的評価（「そう思う」+「ややそう思う」）の多い順）

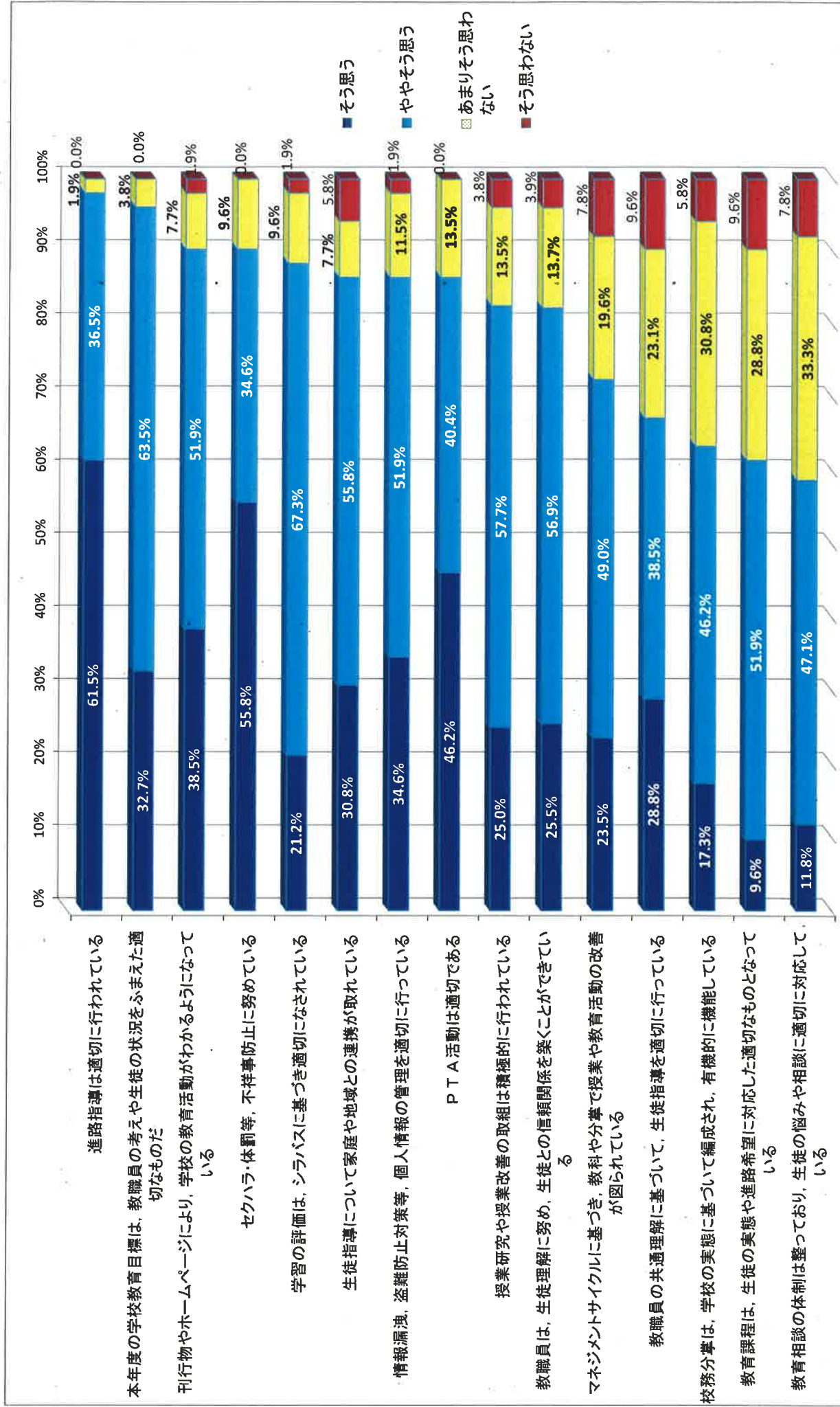


表3 職員による学校評価 [昨年度との比較]

評価	昨年比	番号	質問事項	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	肯定	否定	肯定増減
◎	↑	9	進路指導は適切に行われている	61.5%	36.5%	1.9%	0.0%	98.1%	1.9%	5.2%
◎		1	本年度の学校教育目標は、教職員の考えや生徒の状況をふまえた適切なものだ	32.7%	63.5%	3.8%	0.0%	96.2%	3.8%	-0.3%
◎	-	12	刊行物やホームページにより、学校の教育活動がわかるようになっている	38.5%	51.9%	7.7%	1.9%	90.4%	9.6%	
◎	-	14	セクハラ・体罰等、不祥事防止に努めている	55.8%	34.6%	9.6%	0.0%	90.4%	9.6%	
○	-	4	学習の評価は、シラバスに基づき適切にばなされている	21.2%	67.3%	9.6%	1.9%	88.5%	11.5%	
○		8	生徒指導について家庭や地域との連携が取れている	30.8%	55.8%	7.7%	5.8%	86.5%	13.5%	-1.9%
○	↑	11	情報漏洩、盗難防止対策等、個人情報管理を適切に行っている	34.6%	51.9%	11.5%	1.9%	86.5%	13.5%	12.4%
○	↓	13	PTA活動は適切である	46.2%	40.4%	13.5%	0.0%	86.5%	13.5%	-3.6%
○	↑	5	授業研究や授業改善の取組は積極的に行われている	25.0%	57.7%	13.5%	3.8%	82.7%	17.3%	2.3%
○	↓	7	教職員は、生徒理解に努め、生徒との信頼関係を築くことができている	25.5%	56.9%	13.7%	3.9%	82.4%	17.6%	-11.4%
○	-	15	マネジメントに基づき、教材や分掌で授業や教育活動の改善が図られている	23.5%	49.0%	19.6%	7.8%	72.5%	27.5%	
△	-	6	教職員の共通理解に基づいて、生徒指導を適切に行っている	28.8%	38.5%	23.1%	9.6%	67.3%	32.7%	
△	-	3	校務分掌は、学校の実態に基づいて編成され、有機的に機能している	17.3%	46.2%	30.8%	5.8%	63.5%	36.5%	
△	↓	2	教育課程は、生徒の実態や進路希望に対応した適切なものとなっている	9.6%	51.9%	28.8%	9.6%	61.5%	38.5%	-7.2%
△	↓	10	教育相談の体制は整っており、生徒の悩みや相談に適切に対応している	11.8%	47.1%	33.3%	7.8%	58.8%	41.2%	-12.6%

指標の見方 [評価] ◎90%以上が肯定的 ○70%以上が肯定的 △50%以上が肯定的 ▲肯定的が50%未満

[増減] ↑前年度比+5%以上 ↑前年度比+2%以上+5%未満 ↓前年度比-5%以上 ↓前年度比-2%以上-5%未満

↓前年同等設問無し

(5) 考察

ア 「学力の向上」について

「先生方は授業を工夫して学力向上に取り組んでいる」について、生徒の肯定的回答は82.7%（昨年比+17ポイント）、「授業研究や授業改善の取組は積極的に行われている」について職員の肯定的回答は82.7%（昨年比+2.3ポイント）と良い評価であった。これは、今年度教員相互の授業公開週間を2週間設けたり、県教委訪問等を機に、生徒の能動的・対話的学習（いわゆるアクティブ・ラーニング）について研修を深めたりといった取組が奏功していると思われる。しかし一方、授業内容や学力の定着がどうだったか視点では、「授業の内容に興味・関心が持てる」について生徒の肯定的回答は74.3%と全質問項目の中で最低であった。生徒の自由記述にも「授業がわかりづらい」、「もっと面白い授業をして欲しい」等の意見が複数寄せられた。

「教員は授業を工夫し学力の向上に取り組んでいる」について、保護者の「そう思う」という回答は19.4%にとどまり、「分からない子どもに分かりやすく説明してあげなければ困ります。」という厳しい御意見もいただいた。

後述する生徒による職員個々の授業評価アンケートも併せてみると、職員の学力向上に対する取組は改善しそれが生徒には伝わりつつあるが、肝心の学力向上の自覚にはまだ結びついていないという様子が見て取れる。分かりやすい授業を目指し、一層の授業改善を進めていきたいところである。

イ 「進路指導の充実」について

「進路指導は適切に行われているか」について、保護者の肯定的回答は85.8%（昨年比+11.5ポイント）、生徒は91.0%（昨年比+7.7ポイント）、職員は98.1%（昨年比+5.2ポイント）で、いずれも良好な評価及び昨年比大幅なアップであった。これは、総合的な学習の時間を活用して、1年生11回、2年生7回、3年生9回にも及ぶ進路関係講話やガイダンス等の取組が評価されたものと思われる。また、特に3年生については進路指導部を中心に、各進路分野別の文字どおり“親身の指導”が、生徒や保護者にも伝わっていると考えられる。逆に1、2年生及び保護者には「もっと早く進路の話を知りたい」という意見もあり、こうした声を真摯に受け止め、3年間を見とおしたより体系的なキャリア教育の推進に努めたいところである。

ウ 「部活動の充実」について

「部活動は活発である」という設問に対する肯定的回答は、保護者94.1%、生徒96.5%（昨年比+11.5ポイント）でともに全設問中トップの肯定率であった。

（ただし、生徒が昨年比11.5ポイントも上昇しているのは、昨年の設問が「部活動や生徒会活動は活発か」であり今年度は部活動だけに絞った形になったためと思われる。）

本校の部活動の充実ぶりやその成果は、対外的にも良く認知されていると思うが、「練習に休みが欲しい。」、「学業のために入学したのか部活動のためなのか分からない。」等の意見が保護者、生徒とも複数寄せられていることは看過できない。一方では、「どの部活も練習時間が長くなれば活発になる。」、「専門的な取組や指導を望む。」という意見もあり生徒、保護者にも様々な考え方があることが窺える。指導の在り方を見直すとともに、指導方針や方法等について丁寧に説明し理解を得る努力が必要であろう。

エ 「道徳教育の充実」及び「生徒指導の充実」について

生徒指導関係の評価は、規律・モラル等生活指導に係る分野は高い評価だったが、教育相談については比較的低い評価となった。

「生活指導が適切になされているか」について、保護者93.7%（昨年比+8.9ポイント）、生徒94.0%（昨年比+17ポイント）と非常に高い肯定率を示した。

一部に「指導が厳しすぎる。」という保護者や生徒の自由記述もあるが、概ね生活指導については理解と協力が得られていると考えられる。ただし、職員の「共通理解に基づいて生徒指導を適切に行っている」という設問に対する肯定的回答は67.3%にとどまり、職員の縦（学年間）と横の連携については問題意識を持つ職員が多いことが明らかとなった。

一方、「教員は悩みや相談に親身になって応えている」についての肯定的回答は、保護者80.0%、生徒78.7%にとどまり、いずれも全質問項目中下から3番目の肯定率となった。（昨年との比較では、保護者、生徒いずれも10～20ポイントの上昇となっはいるが、同質問について昨年は『どちらともいえない』が30～40%と非常に多かったため、比較はあまり意味をなさないと考える。）。生徒の「相談体制が整っており、悩み事を相談する窓口がある」に対する肯定的回答（74.8%）も下から2番目の肯定率である。また、職員の「教育相談の体制は整っており、生徒の悩みや相談に適切に対応している」に対する肯定的回答は58.8%（昨年比-12.6ポイント）と全質問項目中最低であった。次年度の大きな課題の一つであろう。

オ 「情報発信及び広報活動の推進・充実」について

「刊行物やホームページにより学校の教育活動が分かるようになっている」について、職員の肯定的回答は90.4%で上から3番目であるが、保護者の肯定的回答は77.5%で下から2番目であり両者の評価が乖離している。学校ホームページについては、更新回数90回（平成28年4月～12月）、通算アクセス数71万1000超（平成28年4月～12月では約10万5千アクセス）と、更新回数、アクセス数とも順調である。しかし、保護者の視点で学校の様子がよく伝わっているかという点はまだ不十分ということであろう。今後、携帯端末用コンテンツの充実や、紙媒体をとおしての発信等、一層の工夫・努力をしたいと考える。

なお、今年度、東京情報大学と道徳教育の推進に係る連携事業を行った。また、千葉県立盲学校とのフロアバレーを通じた生徒同士の交流や、市立中央小学校・市立四街道北中学校と合同開催のわくわくコンサート、吹奏楽部、JRC等を中心に多数のイベント参加やボランティア活動等を実施した。これらの連携や取組についての反応があまりないのは残念であった。こうした取組状況の広報にも力を入れるとともに、評価項目としても次年度以降の質問項目に加えたいと考える。

2 生徒による授業評価アンケートについて

(1) アンケート実施時期

平成28年11月下旬～12月8日

(2) 調査対象・方法及び回答数

ア 非常勤講師を除く54名の授業担当者が、自分の担当している授業講座のうち1講座以上の生徒を対象に、記名自由でアンケートを実施した。対象教科は全教科である。

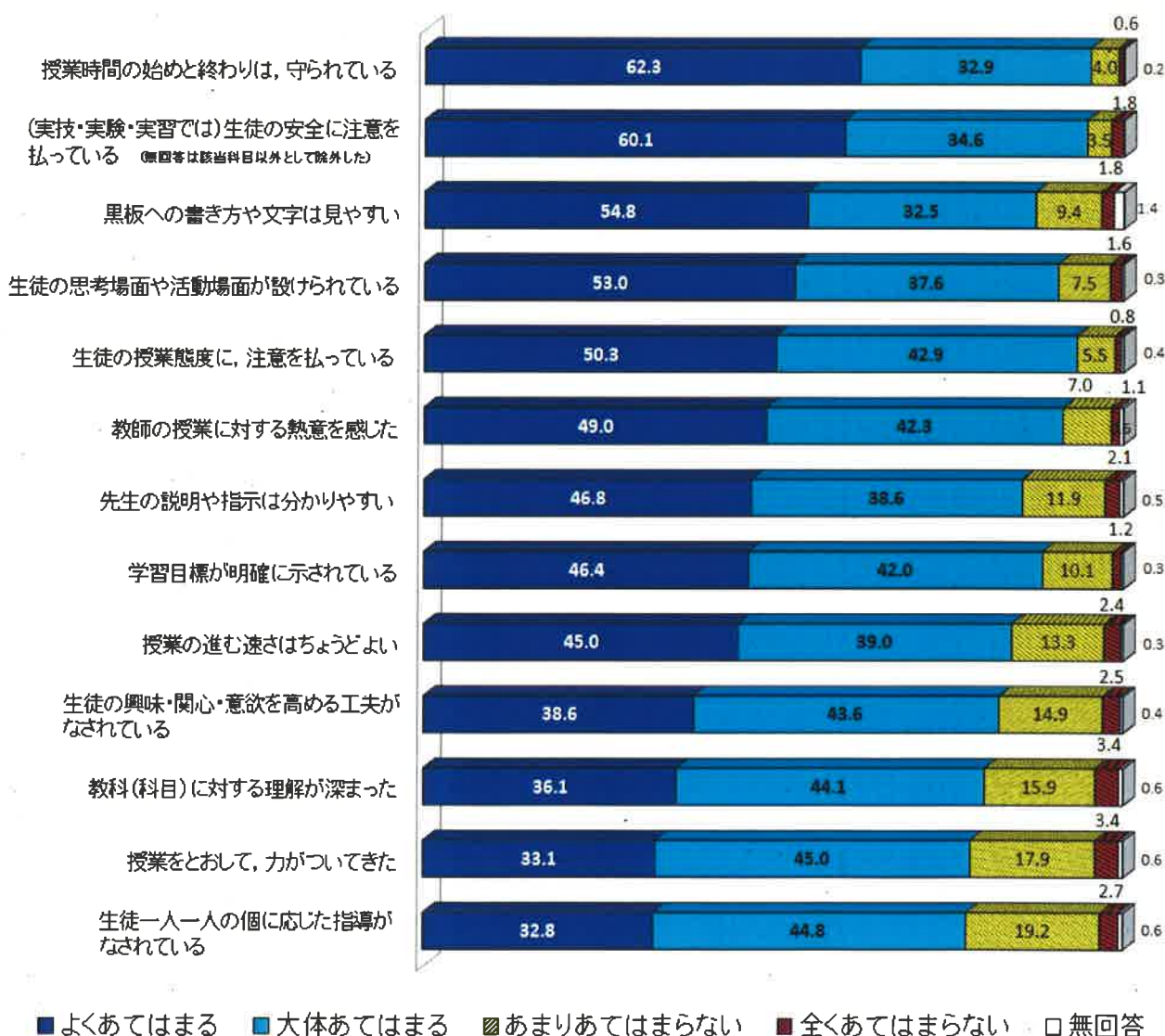
イ 質問項目は、13項目である。

ウ 95講座・のべ3,570名の回答を得た。

(3) 結果

集計は各講座及び各教員ごとに行い、教員ごとの結果は、それぞれの授業改善に資するべく教員個別に返却した。ここでは、全教員の合算を示し、本校全体としての傾向を示す。

生徒による授業評価【全教員合算】－「よくあてはまる」の多い順－



(4) 考察

質問全13項目中11項目で肯定的回答（「よくあてはまる」＋「大体あてはまる」）の割合が80%を超え、全体として概ね良好な評価を得ている。特に、「授業時間の始めと終わりは守られている」や「生徒の授業態度に注意を払っている」等授業規律に関わることや、「(実技・実験・実習)安全に配慮している」、「教師の授業に対する熱意を感じた」等について91%以上の肯定的回答があることは、授業の基盤となるものとして重要である。

授業内容や方法の工夫・改善に係る質問に対する肯定的回答は、「生徒の思考場面や活動場面が設けられている」が90.6%、「学習目標が明確に示されている」が88.4%、「先生の説明や指示は分かりやすい」が85.4%等となっており、比較的高い肯定度である。

一方、肯定的評価の割合の下位3つは、「教科(科目)に対する理解が深まった」が80.2%、「授業をとおして力がついてきた」が78.1%、「生徒一人一人の個に応じた指導がなされている」が77.6%であった。生徒一人一人が真に授業の満足を得るためには、これらの個人的な質問項目に対する肯定的回答、とくに「よくあてはまる」という回答の上昇が不可欠である。我々は、授業についても生徒のニーズから外れることのないよう心を配り、一人一人に「力を付けさせる」ことを目標に精進していきたい。